有機水銀中毒事件に見る通り、同じ被害を繰り返している。

チッソの加害責任を確定させた第一次訴訟判決からも、すでに一〇年がたつ。そして現地では三月一九、二〇の両日、「水俣の再生にむけて」一〇周年記念集会が持たれる。

日本の企業と女性

横田　啓子
（在ニューヨーク・ニューヨーク市立大学院生・26歳）

十数年ぶりの大雪の中にすっかりうもれてしまった石の街ニューヨークにも、春がやってきた。日本ではひな節句である三月三日に、ニューヨーク市にあるジャパン・ソサエティーで岩男寿美子慶応大学教授が日本人のアメリカ像の変化について講演された。ベトナム戦争、ウォーターゲート事件などとともに世界のリーダーとしてのアメリカ像は、その強国のイメージを失っていったこと、また一般アメリカ人のイメージとしては、刑事コロンボが代表格であることなどを話された。アメリカ人聴衆から、日米経済摩擦、中曽根首相の「右翼的」政策に対する日本人の反応などについて質問がだされた。しかし、何よりも聴衆を興奮させたのは日本人のアメリカ女性像と、日本女性の社会的地位に関する問答であった。

当地では、どんな職場にも、責任ある地位に必ず女性がいる。家庭にいる女性は病気か、よほど無能力かのように思われている。大学院のクラスにも多くの中高年女性が、コンピューターなどの新しい知識、技術を学んでいる。こうした女性の姿をみるのは、なんとさわやかで励まされることだろうか。岩男教授は、残念ながらこういったアメリカ女性像は日本には伝え

日本料理の粋を集大成
週刊朝日百科
世界の食べもの
第118号発売！
日本編㊳近世の食事
農村の食事、飢饉と救荒食、遊びと料理、江戸の食べ物屋、江戸時代の料理本ほか
定価460円
●全140冊●毎週水曜日発売
朝日新聞社

られていないと話された。

日本にはどうしてビジネスウーマンが少ないのか、とよく質問される。日本の企業は女性を対等な人間として扱っていないようだ。賃金差別以前に、男女は個人の能力に応じて雇用されず、男女別職種に分けられて雇用されている。このような男女差別は、日本企業に対する国際的批判にも値するのではないか。事実、アメリカにある日本企業で働くアメリカ人女性が、その企業の昇進差別に対して訴訟をおこし、裁判では日本企業は男女ともに雇用と昇進の平等を与えるよう、という判決がでている。

アメリカで日本女性の地位、日本男性の女性観を聞かれると恥ずかしくなる。ここでは大学にも多くの女性教授がいる。女性についての研究に次々と補助金がだされ、会議が開かれている。ニューヨーク州は女性の政治能力を訓練するためのプログラムを組み、奨学金をだしている。これは、氷山の一角に過ぎない。

日本の女性の地位向上のための行動計画とその実績をかえりみると、貧しいかぎりである。この日の講演会の聴衆からも、日本での雇用平等法案推進に対する質問がだされていた。一九八五年にある国際婦人年会議までに、ぜひとも同法を制定し、施行したいものである。

家族

木村　泰崇
（東京都板橋区・編集プロダクション勤務・25歳）

いつもぶつかり合ってぶつかり合ってやってきた気がする。そして、もちろん今もぶつかり合っている。

私の家は滋賀にある小さな村の浄土宗の寺だ。父と母と妹と私の四人が私の家族、私は寺の一人息子だ。

高三の時、仏教系の大学への進学を拒否して、父と連日の大ゲンカ。自分の意志を通して東京の私立大学で無神論哲学を専攻して卒業。大学四年の時には、「滋賀に帰って寺を継げ」「東京に残り自分のやりたいことをやる」で大ゲンカ。

高三の時も、大学四年の時も、父と顔を合わせるたびにケンカをし、家族四人そろうたびに議論していたように思う。